

観光学部観光学科カリキュラム・マップ

DP (教育目標)

- DP1 観光と社会の双方について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP2 グローバルな視点から、多様な背景、価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、適切に理解して行動することができる。
- DP3 国内外でグローバル化が進む社会において求められる語学力、情報リテラシー、プロジェクトのマネジメントについて理解し活用することができる。
- DP4 グループワークに必要なコミュニケーション能力を身に付け、相手の立場に立って考え、共感力を引き出すことができる。
- DP5 社会人として必要な倫理性を身に付け、多様な価値観を認める寛容さと他者理解の上に立つ共感力、豊かな表現力を持って、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP6 現場での活動を通して身に付けた「やり抜く力」を活かし、主体的に課題を発見し、解決に向けて行動することができる。
- DP7 生涯にわたって学習し自己研鑽を重ねる意欲のもと、社会が求める知識・技能を持続的に高めながら、観光の新しい価値の創出に努めることができる。

科目群	授業科目	単位数	科目区分	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	SDGs該当項目
全学部共通基盤科目群	デジタルアプリA	2	選択	本講義は、グローバル化社会にふさわしいコミュニケーション力や実践力を身につけるために、ICTの基礎的なスキルを修得することが目標である。具体的には、コンピューターの基本操作、データの保存と管理といった情報処理の基礎、適切に情報を扱うための情報倫理を学ぶとともに、Microsoft Word、Excelなどを使ってレポート等の文書・資料を作成する際の実践的なスキルの向上に取り組む。加えて、大学独自のメールシステムの取り扱い、メールのマナーなどについても修得する。		○						
	デジタルアプリB	2	選択	本講義は、グローバル化社会にふさわしいコミュニケーション力や実践力を身につけるために、ICTの基礎的なスキルを修得することが目標である。具体的には、コンピューターの基本操作、データの保存と管理といった情報処理の初歩、適切に情報を扱うための情報倫理を学ぶとともに、Microsoft PowerPointなどを使ってプレゼンテーション資料などを作成する際の実践的なスキルを修得するとともに、プレゼンテーションスキルの向上に取り組む。		○						
	English Skills for International Tourism	2	選択	本講義は、英文をより効果的に書くためのスキル、知識、テクニックの向上を目標とする中級レベルのクラスである。グローバルなコミュニケーションの重要な部分は「書くこと」であり、キャリアを成功へ導く鍵の一つと言える。具体的には、基本文法を復習しながら、より高度な英文を読み、書き、話せることを身につける。また、しっかりとした英文構造を理解するため、文法を中心に学ぶが、「Reading、Writing、Listening、Speaking」の4技能を高めるため、ListeningやSpeakingについても学習する。		○	◎	○				
	Reading and Writing for International Tourism	2	選択	本講義は、主として英語のReadingとWritingのスキル向上を目標とする上級レベルのクラスである。TOEIC(R)や英検等の資格試験におけるReadingセクション及びWritingセクションを重点的に学習する。Reading及びWritingスキルは、グローバル社会の中で仕事をする上でなくてはならない技能でもあることから、講義ではReadingとWritingに重点を置き、語彙力・読解力のアップを目指す。		○	◎	○				
	Discussion and Presentation in Tourism	2	選択	本講義は、ディスカッションを通して英語の4つのスキル(Reading、Writing、Listening、Speaking)の向上を目標とする上級レベルのクラスである。ディスカッションを授業の基本とするが、語彙を増やすこと、そしてより良く、より速く読むための方法を身につける。また、プレゼンテーション能力を高めるために、観光地理の補助教材等を利用する。講義では、語彙力と思考のスキルを身につけるとともに、Reading、Discussion、Presentationなどの英語力全体のスキルアップを目指す。		○	◎	○				
	English for Tourism A	2	選択	本講義は、観光の現場で使用する英語を学ぶための初級レベルのクラスである。英語力は国際的な観光産業の重要な部分であり、観光従事者は様々な状況で訪問者とのコミュニケーションが求められるため、英語でのコミュニケーションが要求される。そこで講義では、英語による基礎的なコミュニケーションスキルを身につけ、観光の具体的な場面を想定した実践的な学習を繰り返すことで、観光英語能力試験3級相当の実力を身につけることが目標である。		○	◎	○				
	English for Tourism B	2	選択	本講義は、観光ビジネスで使用する英語を学ぶための中級レベルのクラスである。観光産業で働くことを目指す学生にとって、日本を訪れるゲストと効果的にコミュニケーションをとるためには、コミュニケーションスキルの向上とともに、観光産業で用いられる特定の語彙や様々な文化的知識が要求される。そこで講義では、観光に関わる語彙を増やすとともに、より高度なコミュニケーションスキルを習得することで、観光英語能力試験2級相当の実力を身につけることが目標である。		○	◎	○				
	中国語Ⅲ	2	選択	本講義は、観光ビジネスで使用する英語を学ぶための中級レベルのクラスである。観光産業で働くことを目指す学生にとって、日本を訪れるゲストと効果的にコミュニケーションをとるためには、コミュニケーションスキルの向上とともに、観光産業で用いられる特定の語彙や様々な文化的知識が要求される。そこで講義では、観光に関わる語彙を増やすとともに、より高度なコミュニケーションスキルを習得することで、観光英語能力試験2級相当の実力を身につけることが目標である。		○	◎	○				
	中国語Ⅳ	2	選択	本講義は、中国語初級段階を終えた上級レベルのクラスである。重要な文法事項をマスターしながら、日本の文化や習慣を中国語で紹介するなどの実践形式を用い、「聞く・話す・読む・書く」の四つの能力の向上をさせることが目標である。さらに、観光の現場における「おもてなし」の場面でよく使う短いフレーズを中心に、さまざまな場面で役立てる「おもてなしの中国語」を学び、応用展開できる表現を身につけることを目指す。本講義を履修することで、中国語検定3級程度の力を身につけることができる。		○	◎	○				
	韓国語Ⅲ	2	選択	本講義は、ハングル能力検定試験4級の合格を目指す中級レベルのクラスである。韓国語文型を定着するための繰り返し練習をするとともに、頻度の高い単語を習得し、発音の変化と用言の活用を習得することが目標である。また、様々な場面において韓国語で対応できるように文法の理解を深め、会話能力や作文能力が向上することも目指す。具体的には、尊敬の表現や義務・命令の表現などを身につける。既習項目を様々な形で練習し、学んだ内容を基に話すだけでなく、作文するまでの韓国語表現を身につけることを目指す。		○	◎	○				
韓国語Ⅳ	2	選択	本講義は、韓国語既習者を対象とする上級レベルのクラスである。韓国語の詩・小説・童話・シナリオなど様々なジャンルの文章を読むことで読解力の向上を目指す。また、毎回の授業では、韓国語での会話練習を実施し、コミュニケーション能力の向上も目指す。婉曲な表現や注意・指示表現、自然な言い回し、アドバイス表現など実際の韓国語コミュニケーションに必要な実用的文型と単語を取り入れた会話中心の授業を実施し、最終的には一般的なテーマについて、自分の考えを自然な韓国語で表現できるようになることが目標である		○	◎	○					

ハンガリー語Ⅲ	2	選択	本講義は、一年以上ハンガリー語を学習した学生のための中級レベルのクラスである。この講義では、文法や語彙に関する学習も続けるが、日常会話の練習を中心に学習するとともに、翻訳の練習も実践する。英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習などを試みる。本講義は、学部の研修プログラムと連動しており、ハンガリー研修やハンガリーへの短期・長期留学プログラムへの参加を希望する学生やハンガリー留学から帰国した学生のためのコースにもなっている	○	◎	○																
ハンガリー語Ⅳ	2	選択	本講義は、一年以上ハンガリー語を学習した学生のための上級レベルのクラスである。現代ハンガリー語を学習するため、教科書に加えて、インターネット上の豊富なインフォメーション、テレビ番組、ラジオ番組などを使用する。現代のハンガリー文化、ポップカルチャー、映画とアニメと漫画の世界など、様々なテーマをピックアップして、ハンガリー文化の理解を深めることが目標である。本講義は、学部の研修プログラムと連動しており、ハンガリー研修やハンガリーへの短期・長期留学プログラムへの参加を希望する学生やハンガリー留学から帰国した学生のためのコースにもなっている。	○	◎	○																
キャリア形成A	1	選択	キャリア形成科目は、大学生活のための導入学修から就業力の涵養に向けた地力の修得を目標とする。そのため、全学部共通基盤科目「アカデミック・スキルズ（1年次1Q開講科目）」を履修し、「キャリア形成A」から継続的に履修することで最大限の学修効果が期待できる。キャリア形成科目では、自分自身のこと（専門分野あるいは自己の興味関心・強み弱み・能力・価値観など）、社会のこと（職業・労働環境・社会情勢・会社組織についての基礎知識など）についての理解を深め、将来の進路を自分で決められるようにすることを目指す。「キャリア形成A」では、4年間の大学生活と社会人生活を有意義に戦略的に過ごすための方法についての理解を深める。（1年2Q）	○																◎		
キャリア形成B	1	選択	キャリア形成科目は、大学生活のための導入学修から就業力の涵養に向けた地力の修得を目標とする。そのため、全学部共通基盤科目「アカデミック・スキルズ（1年次1Q開講科目）」を履修し、「キャリア形成A」から継続的に履修することで最大限の学修効果が期待できる。キャリア形成科目では、自分自身のこと（専門分野あるいは自己の興味関心・強み弱み・能力・価値観など）、社会のこと（職業・労働環境・社会情勢・会社組織についての基礎知識など）についての理解を深め、将来の進路を自分で決められるようにすることを目指す。「キャリア形成B」では、職業・労働環境・社会情勢・会社組織などの基礎知識を学び、社会に関する理解を深める。（1年3Q）	○																	◎	
キャリア形成C	1	選択	キャリア形成科目は、大学生活のための導入学修から就業力の涵養に向けた地力の修得を目標とする。そのため、全学部共通基盤科目「アカデミック・スキルズ（1年次1Q開講科目）」を履修し、「キャリア形成A」から継続的に履修することで最大限の学修効果が期待できる。キャリア形成科目では、自分自身のこと（専門分野あるいは自己の興味関心・強み弱み・能力・価値観など）、社会のこと（職業・労働環境・社会情勢・会社組織についての基礎知識など）についての理解を深め、将来の進路を自分で決められるようにすることを目指す。「キャリア形成C」では、社会で必要とされる言語力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、ディスカッション力の向上を目指す。（1年4Q）	○																	◎	
キャリア形成D	1	選択	キャリア形成科目は、大学生活のための導入学修から就業力の涵養に向けた地力の修得を目標とする。そのため、全学部共通基盤科目「アカデミック・スキルズ（1年次1Q開講科目）」を履修し、「キャリア形成A」から継続的に履修することで最大限の学修効果が期待できる。キャリア形成科目では、自分自身のこと（専門分野あるいは自己の興味関心・強み弱み・能力・価値観など）、社会のこと（職業・労働環境・社会情勢・会社組織についての基礎知識など）についての理解を深め、将来の進路を自分で決められるようにすることを目指す。「キャリア形成D」では、社会人生活を「より有意義に」「より戦略的に」過ごすためのライフ・デザインを実現する方法について学修する。（2年1Q）	○																	◎	
キャリア形成E	1	選択	キャリア形成科目は、大学生活のための導入学修から就業力の涵養に向けた地力の修得を目標とする。そのため、全学部共通基盤科目「アカデミック・スキルズ（1年次1Q開講科目）」を履修し、「キャリア形成A」から継続的に履修することで最大限の学修効果が期待できる。キャリア形成科目では、自分自身のこと（専門分野あるいは自己の興味関心・強み弱み・能力・価値観など）、社会のこと（職業・労働環境・社会情勢・会社組織についての基礎知識など）についての理解を深め、将来の進路を自分で決められるようにすることを目指す。「キャリア形成E」では、ビジネス社会で必要とされる知識と技法（数的処理、言語力等）の向上を目指す。（2年2Q）	○																	◎	
キャリア形成F	1	選択	キャリア形成科目は、大学生活のための導入学修から就業力の涵養に向けた地力の修得を目標とする。そのため、全学部共通基盤科目「アカデミック・スキルズ（1年次1Q開講科目）」を履修し、「キャリア形成A」から継続的に履修することで最大限の学修効果が期待できる。キャリア形成科目では、自分自身のこと（専門分野あるいは自己の興味関心・強み弱み・能力・価値観など）、社会のこと（職業・労働環境・社会情勢・会社組織についての基礎知識など）についての理解を深め、将来の進路を自分で決められるようにすることを目指す。「キャリア形成F」では、会社選びにはどのような点に注意しなければならないかを理解するとともに、就職支援企業から最近の就職情報を伺い、今後の就職活動に役立てる。（2年3Q）	○																		◎
キャリア形成G	1	選択	キャリア形成科目は、大学生活のための導入学修から就業力の涵養に向けた地力の修得を目標とする。そのため、全学部共通基盤科目「アカデミック・スキルズ（1年次1Q開講科目）」を履修し、「キャリア形成A」から継続的に履修することで最大限の学修効果が期待できる。キャリア形成科目では、自分自身のこと（専門分野あるいは自己の興味関心・強み弱み・能力・価値観など）、社会のこと（職業・労働環境・社会情勢・会社組織についての基礎知識など）についての理解を深め、将来の進路を自分で決められるようにすることを目指す。「キャリア形成G」では、職業・労働環境・社会情勢・会社組織などの基礎知識を学び、社会についての理解を深める。（2年4Q）	○																		◎
キャリア形成H	1	選択	キャリア形成科目は、大学生活のための導入学修から就業力の涵養に向けた地力の修得を目標とする。そのため、全学部共通基盤科目「アカデミック・スキルズ（1年次1Q開講科目）」を履修し、「キャリア形成A」から継続的に履修することで最大限の学修効果が期待できる。キャリア形成科目では、自分自身のこと（専門分野あるいは自己の興味関心・強み弱み・能力・価値観など）、社会のこと（職業・労働環境・社会情勢・会社組織についての基礎知識など）についての理解を深め、将来の進路を自分で決められるようにすることを目指す。「キャリア形成H」では、グループワークとプレゼンテーションにより、社会人基礎力を高め、将来の進路を決めることができるようになることを目指す。（3年1Q）	○																		◎

海外研修B	2	選択	「海外研修B」は、観光ビジネス分野の一つである宿泊業をテーマに、アジアにおけるホスピタリティの在り方を実地で学ぶことが目標である。具体的には、アジア圏における本学姉妹校を主な拠点として、講義聴講、実習体験、学生交流、主要ホテル・観光地視察を行い、グローバルな視野を広げるとともにホスピタリティ産業で必要とされる要素について理解を深めることが目標である。アジア圏への視察を通じて、アジアにおける郊外型観光地や都市型観光地の在り方を学び、現地姉妹校の学生とのディスカッションや共同研修などの活動を通して、異文化理解への深化を目指す。	○	◎								
海外研修C	2	選択	「海外研修C」では、主にハワイでの研修を通して、国際観光の最先端に触れるとともに、実践的な英語力と異文化コミュニケーション力を高めることが目標である。現地では、本学との姉妹校を主な拠点として、現地大学での講義や学生との交流、ホームステイでの現地受入先家族との交流などにより、異文化理解力を高めていく。また、ハワイの歴史や文化、日系移民の歴史などについても学ぶとともに、ハワイにおけるインバウンド・アウトバウンド観光の視点に着目して、観光振興の仕組みについての理解を深める。	○	◎								
インターンシップ（国内）	2	選択	「インターンシップ（国内）」では、「仕事の厳しさ・楽しさ」と「企業で活躍すること」を実地で学ぶことを目標とする。就職活動を見据え、現場を通して様々な業務に触れ、社会で必要とされる力がどのようなものかを体験する。また実際に職業体験をすることで、就職後のアンマッチを避けられるようにすることも実施意義の一つである。参加者はそれぞれの企業・組織文化に目を向け、与えられた業務に対して真摯に向き合うことを理解する。さらに、研修後には、それぞれの研修を通して感じた重要と思われる力を継続的に向上できるよう、各自がセルフマネジメントできる力を身につけることを目指す。	○		○				◎			
インターンシップ（海外）	2	選択	「インターンシップ（海外）」では、日本国内では経験できない職務経験を、海外における観光の現場で職務経験を体験することで観光人財としてのスキルアップを目指すことが目標である。原則として、海外において2週間程度のインターンシップ（就業体験）として、実務経験を体験する。時間数、報酬等については、ビザの条件など渡航先の国と事業所の規定に従うものとする。ただし、留学生が母国に帰省して参加するインターンシップは、原則対象外である。	○		○				◎			
インターンシップ（長期）	6	選択	「インターンシップ（長期）」は、大学が定める事業所のみで実施される長期プログラムで、観光人財としてのスキルアップを目指すことが目標である。研修期間は、原則2カ月から4カ月未満（270時間以上）とし、「インターンシップ（国内）」、「インターンシップ（海外）」とは別途、新たに単位を認定する。具体的には、国内外の研修先にて「2シーズン以上・同一の現場」で実務形式での研修を実施することが条件となる。履修者は、担当教員の指導のもと、事前・事後指導への参加、定期レポートおよび事後レポート等が義務づけられる	○		○				◎			
観光ビジネス特別講座	2	選択	「観光ビジネス特別講座」は、観光関連産業の現場を視察し、観光ビジネスがもたらす地域への経済波及効果を実地で学ぶことが目標である。観光関連産業としては「宿泊業」、「外食産業」、「観光地域づくり法人（DMO）」などをテーマに、第一線で活躍される方々などから講話を伺う機会を設け、これらの分野に関する理解を深める。人口減少や観光公害、感染症など様々な社会課題の影響や地方創生の取り組みなど、観光振興に向けた取り組みなどを現場の視点で学ぶことに重点を置く。	◎	○								
デジタルアプリA	1	選択	本講義は、グローバル化社会にふさわしいコミュニケーション力や実践力を身につけるために、ICTの基礎的なスキルを修得することが目標である。具体的には、コンピューターの基本操作、データの保存と管理といった情報処理の基礎、適切に情報を扱うための情報倫理を学ぶとともに、Microsoft Word、Excelなどを使ってレポート等の文書・資料を作成する際の実践的なスキルの向上に取り組む。加えて、大学独自のメールシステムの取り扱い、メールのマナーなどについても修得する。	○		◎							
デジタルアプリB	1	選択	本講義は、グローバル化社会にふさわしいコミュニケーション力や実践力を身につけるために、ICTの基礎的なスキルを修得することが目標である。具体的には、コンピューターの基本操作、データの保存と管理といった情報処理の初歩、適切に情報を扱うための情報倫理を学ぶとともに、Microsoft PowerPointなどを使ってプレゼンテーション資料などを作成する際の実践的なスキルを修得するとともに、プレゼンテーションスキルの向上に取り組む。	○		◎							
デジタルメディアA	1	選択	本講義は、グローバル化社会にふさわしいコミュニケーション力や情報発信力、実践力を身につけるために、ICTの応用スキルを修得することが目標である。具体的にはAdobe Illustratorの利用方法を学び、イラスト描画方法やトレース方法などを修得する。このアプリを用いて、観光などの様々な現場で求められる地図やチラシ、ポスターなどの紙媒体の資料を作成する方法を身につける。そのほか、様々なメディア制作に必要なスキルについての理解を深める。	○		◎							
デジタルメディアB	1	選択	本講義は、グローバル化社会にふさわしいコミュニケーション力や情報発信力、実践力を身につけるために、ICTの応用スキルを修得することが目標である。具体的にはAdobe PremierProの利用方法を学び、様々な撮影機器を用いた動画の撮影や編集のスキルを修得する。このアプリを用いて、観光などの様々な現場で求められる動画を作成する方法を身につける。そのほか、様々な撮影機材の特性やスキル、情報発信に必要なスキルの理解を深める。	○		◎							
観光と社会	2	選択	本講義は、観光現象を人の移動、旅、交流といった大きな視点から捉え、それを取り巻く社会や文化、歴史等とどのように繋がっているか、またそこにどのような課題があるのかについての理解を深めることが目標である。具体的には、現代のグローバル社会を考える上で重要なダイバーシティ、ジェンダー、ポスト植民地主義といった概念を理解し、それらの概念が観光にどのような影響を与え、どのような課題があるのかを、日本、北米、ヨーロッパでの観光の具体例を挙げながら検討する。講義では、多様な価値観を認め、他者を理解するといった観光に欠かせない視点を養うことを目指す。	○	○				◎				10
観光人類学	2	選択	本講義は、文化人類学の視点から、観光によって生じる伝統的文化と新しい文化に現れる影響などについて理解を深めることが目標である。人間の移動は新たな文化との接触を生み出す。観光が人と人との交流を生み出すものであるならば、そこには異文化との接触が発生し、それによって在来文化に影響を及ぼすと言える。観光による文化変容やホストとゲストの関係、観光によって作られた文化が伝統的文化の再生や維持につながる点などを概観し、具体的な事例を用いて観光における他者と伝統的文化との関係について学修する。	○	○				◎				10

観光行動論	2	選択	本講義は、観光者の行動について、心理学や日本人の行動の歴史の実態などの基礎的分析をもとに、観光やサービスの場面におけるノンバーバル・コミュニケーションやサービスの基礎理論、さらには観光回遊行動の特性について学ぶことが目標である。現代的テーマとしては「テーマパークにおける観光行動」、「インバウンド観光者の行動」などがあり、心理学的には「不安心理と観光行動」、「空間利用の生理心理」などが検討対象となる。経済学的にも「行動経済学」、「理論経済学」が重要な理論的基礎になりつつあり、学問を実際的なものにするには欠かせないアプローチである。以上に加え、ビックデータ、RESAS（地域経済分析システム）などの最新技術を取り入れることにより、具体的な分析方法を身につけることを目指す。	○	○				◎				8
観光地理概論	2	選択	本講義は、地理学の領域から観光を捉えるための基礎知識を学び、観光地形成への理解を深めることが目標である。主に観光地の分類及び特徴の分析から、観光圏の形成と構造について俯瞰的に理解することを目指す。具体的には観光関連産業の発達や観光地化に伴う生活・文化への影響などを取り上げるとともに、都市や農村の人口交流、農山漁村の集落地域の特徴、都市景観や交通、そして温泉保養地などの観光地の形成について、具体的事例を取り上げながら理解を深めていく。	○	○				◎				11
観光政策	2	選択	本講義は、観光法制を含めた観光政策全般についての基本的知識を修得することが目標である。観光はビジネスであると同時に、国と国との交流という側面も持っており、国にとっても大変重要な活動である。従って、市場に任せておくだけでなく、政府が積極的に介入し、人の交流をスムーズにしていくために予算の裏付けのある諸施策をタイムリーに実施していくことが求められる。直近のところでは、インバウンドの受け入れ強化のための宿泊関連法制の整備などが挙げられる。講義では、観光活動がこうした政府の政策に大きく影響を受けることに対する理解を深めていく。	○	○				◎				11
旅行ビジネス基礎	2	選択	本講義は、観光ビジネスに関する基礎科目であり、主に旅行ビジネス関連業務の基礎知識を身につけることが目標である。国内・総合旅行業務取扱管理者資格に使用される項目をターゲットに置き、資格試験対策といった技術的な事項にとらわれず、試験範囲を網羅した広範な旅行業務について修得することを目指す。講義ではツアープランニング、交通機関の手配、宿泊地の手配等、具体的な事項を提供することによって、旅行業務の面白さを実感してもらうことを主眼としている。	○	○				◎				8
観光まちづくり概論	2	選択	本講義は、観光まちづくりに関する基礎的な知識や考え方に対する理解を深めることが目標である。観光まちづくりにおける導入授業であり、観光まちづくりの様々な要素について、基礎的な知識を体系的に学修する。具体的には、観光まちづくりとは何かから始まり、観光やまちづくり概念の変遷、観光まちづくり政策や着地型観光の取り組み、観光地経営など、観光まちづくりの基本的な考え方に対する理解を深めていく。また、具体的な観光まちづくりの事例として、地域住民が主体的に取り組む観光まちづくりの方法について考察する。	○	○				◎				11
観光マーケティング	2	選択	本講義は、「デスティネーション・マーケティング」について理解を深めることが目標である。デスティネーション・マーケティングとは、ある地域を潜在的観光客に選ばれる観光目的地（デスティネーション/destination）とするための戦略立案と、その実践を意味する観光用語である。国際及び国内とも観光市場での各国・地域間の競争は激しさを増しつつある現在、講義では観光客誘致戦略の立案と実践に必要な基礎理論を身につけ、競争力のある観光目的地の要件について学修する。	○	○				◎				8
観光と芸術	2	選択	現代社会において、観光と文化の結びつきは深く、文化への理解なくしては観光を語ることは難しくなっている。本講義では、都市のブランディングにも寄与するアートや伝統文化・芸術と観光の関係について理解を深めることを目標とする。パリのルーヴル美術館やロンドンの大英博物館など、近年の観光では、アートや文化を体験する文化体験型観光が注目を集めている。特にインバウンド観光では顕著であり、日本でしか得ることのできない文化体験型観光は人気がある講義では、芸術と観光の関係性を明らかにし、芸術による観光活用の手法を学修するとともに、訪日外国人観光客が体験型観光として注目する茶道、浮世絵、陶磁器等について体験的に学ぶ。	○	○				◎				4
観光と自然資源	2	選択	現代社会において、観光と文化の結びつきは深く、文化への理解なくしては観光を語ることは難しくなっている。本講義では、自然地理学的視点から、国内外の自然資源に関する知識への理解を深めることが目標である。特に地形学や気候学とともに、国立公園などの地域資源を取り上げ、自然資源の持続的な利用や管理に関する手法を学修する。また、自然を含む環境全般と人間の関わりに関して、身近な生活環境の中から自然、緑、街などのトピックを用いて考察する。	○	○				◎				13
観光と文化財	2	選択	現代社会において、観光と文化の結びつきは深く、文化への理解なくしては観光を語ることは難しくなっている。本講義では、文化財や建築物に焦点を当て、このような世界各地にある文化的遺産を観光の視点で見えていくことにより、観光の奥深い魅力を理解することを目指す。観光と様々な文化財や建築物には深い関係がある。文化財・建築物は「モノ」としての魅力があるが、それにとどまらず、歴史、文化、宗教、民族など様々な文化的要素との深い関わり合いを持って成り立っている人類の遺産でもある。例えば日本の古代建築物とヘレニズム文化の関係性、イスタンブールのアヤソフィアの持つキリスト教とイスラム教のぶつかり合いの歴史など数多くあり、そのような文化の証としての文化財や建築についての理解を深めていく。	○	○				◎				9
観光と食農・漁業	2	選択	現代社会において、観光と文化の結びつきは深く、文化への理解なくしては観光を語ることは難しくなっている。本講義では、観光と食文化の関わりについて理解を深めることが目標である。観光と食文化は関わりを持つことが多く、「フランス料理」「地中海料理」「和食」などは世界文化遺産に選定されている。また、香辛料を求めて西欧人がアジアにやってくるなど、人の移動を促してきたという歴史的事実もある。現在でも農業と観光の融合は、観光業界の重要な柱となっており、漁業でも「ブルーツーリズム」と称した漁業体験を地域観光に活かす動きが広がっている。講義では、こうした食文化に加え、観光にも関わりのあるバイオテクノロジーやアロマセラピーの視点も取り入れることで、地域特性を活かした観光について理解することを目指す。	○	○				◎				14
観光メディアリテラシーA	2	選択	本講義は、観光に果たすメディアの役割について、様々なメディアの基本的な特徴を学修しながら、メディアを正しく受容するためのメディア・リテラシーを身につけることが目標である。観光は、基本的に自分が知らない土地へ出ていく行為であるため、「道しるべ」が必要であり、その役割を果たすのがメディアである。江戸時代の「道中案内」、明治以降鉄道会社などが競って作った「沿線観光案内」、そして現代では、雑誌やガイドブック、パンフレットなどの紙媒体、テレビ番組やYoutubeなどの映像ソフト、インターネットにあふれる旅情報など多岐にわたる観光メディアがあふれている。講義では、観光に果たすメディアの役割について理解を深めていく。	○	○				◎				9

	観光メディアリテラシーB	2	選択	本講義は、メディア全般や観光メディアの特徴や課題について議論を深めることが目標である。特にネット社会が浸透し、情報の急速な拡散による誤った情報の流布やSNSの炎上などにつながる危険が増している現状から、安全で効果的なメディアとの付き合い方や観光における利用方法の概況を把握することを目指す。さらに、観光だけに限らず、広く社会現象がどうメディアで取り上げられているか、またそれを受け手はどのように受容しているか、そしてメディアとどう接すればよいのかといったメディア・リテラシーについて、具体的な事例をもとに多面的な考察を試みることを目標とする。そして、自分がメディアの発信側になった際にどんなことに気をつけなければならないのかという点まで思考を深める。	○	○				◎				9
	ニューツーリズム	2	選択	本講義は、様々なニューツーリズムを取り上げ、これまでの観光形態とニューツーリズムが掲げるコンセプトの違いを理解することが目標である。観光庁が主導するニューツーリズムは、テーマ性の強い体験型観光に重きが置かれ、様々な観光形態が紹介されている。講義では、そのいくつかを学び、事例を通じて商品化されている実態を学修する。ニューツーリズムは地域が主体となって行われるケースが多く、観光による地域活性化を行うために地域特徴を活かしたテーマ性の高い観光をどのように開発するかなど、グループワークでの発表などを通じて理解を深めていく。	○	○				◎				11
	観光ビジネス研究	2	選択	本講義の学習内容として、前半（15回分）では国内外のECの歴史、ECの本質と開催の意義・効果、市場性を学ぶ。また、ホテル、飲食サービスなどECと密接な業種・企業やECの施設の経営、EC誘致機関、行政の役割、関連法律・保険制度等についても学ぶ。後半（15回分）では、各分野の観光ビジネスを学び、事例を用いて理解を深める。	○	○				◎				9
	旅行ビジネス	2	選択	本講義は、日本及び世界の旅行ビジネスの現状を理解することが目標である。旅行ビジネスとは、人が観光や帰省、仕事などの様々な理由で移動する際に必要となるサービスを提供する企業活動の総称といえる。コロナウイルス発生前には、全世界において年間14億人もの人々が海外に旅行で訪れており、旅行ビジネスはきわめて国際的な競争の中にあつた業界であると言える。講義では、主に旅行会社の現状を概観し、旅行会社のマーケティングや経営戦略などの分析から、今後の旅行ビジネスについての理解を深めていく。	○	○				◎				9
	ホテル・旅館ビジネス	2	選択	本講義は、観光におけるホスピタリティ・サービスの中核である宿泊業について学ぶことが目標である。ホスピタリティ・ビジネスには、病院、介護、社会福祉とともに、将来の成長分野である観光・サービス業があり、その中核が宿泊業である。講義ではホテル業を対象として、その歴史と現状を分析し、ホテル業の社会的存在の意義・経営の価値観・組織・人材・資本・事業価値の向上など事業経営の（What）側面と、経営の日々の活動としての運営のシステム・仕事の仕方（How）について考察する。具体的には、宿泊業の現状や法制度、ホテル施設の基本構成やホテル人材開発、具体的なホテル事情などを取り上げ、ホスピタリティ・ビジネスへの理解を深めていく。	○	○				◎				9
	エアラインビジネス	2	選択	本講義は、エアラインビジネスを多面的に学ぶことを通じ、交通経済の理論、エアラインの業務、そして人の流動についての理解を深めることが目標である。講義を通じて、航空産業の成り立ちや経営環境、エアラインビジネスの具体的な業務実態、安全・リスク管理、事業戦略、マーケティングなどに関する知識を身につけ、交通経済の理論と実践を理解するとともに、観光関連業務に就いた時に必要とされる基礎的思考力、観光ビジネス業界で活用できる幅広い知識や技法、さらには観光以外の業種に進んでも使える思考力を修得することを目指す。同時に、人が移動すること、旅することの意義を確認しながら、これからの観光ビジネス全体のあり方についても考察する。	○	○				◎				9
	イベント・プライダルビジネス	2	選択	本講義は、これからの観光を促す重要なファクターであるテーマパーク、プライダル、イベントなどをテーマとして、観光の切り口から理解を深めることが目標である。テーマパークは観光目的の重要な柱となっている。日本でも、ディズニーランド、ユニバーサルスタジオジャパン、ハウステンボスなどは観光の牽引車であり、これに加えてプライダルやイベントも観光を促す事業である。さらにシンガポールの成功に見られる通り、いわゆる「MICE」に観光の色彩を加えることで、「IR」（Integrated Resort）が大きく展開されることにつながる。IRはカジノ問題を抱えており、現在日本でもその是非及び場所の選定を巡って議論されているが、こうした議論を通じ観光の重要性に対する理解を深めていく。	○	○				◎				9
	アジア観光研究	2	選択	本講義は、アジア全域の理解を深め、アジアの観光に関する基本的な知識を身につけることが目標である。講義では、アジア諸地域の観光の在り方について学び、域内観光資源の活用方法を考察することとともに、訪日観光の視点からインバウンド上位国及び地域からの訪日観光客の特性と動向を分析することを通して、インバウンド観光の重要性と必要性への認識を深めていく。具体的にはアジア諸地域の位置や人口、言語や宗教、民族構成や歴史、経済活動、さらに地形や気候などの理解を深めることを目指す。	○	○				◎				10
	欧米観光研究	2	選択	本講義は、欧州・米国の歴史的・文化的背景を概観しつつ、その観光特徴について理解を深めることが目標である。観光は国際的な活動であるが、そのルーツと革新の多くはヨーロッパにあると言える。したがって、ヨーロッパの視点から観光の知識を得ることは、現代の観光が構築されている基礎を理解するために不可欠な視点である。講義では、ヨーロッパの様々な国における観光の経済的、社会的、政治的、環境的状況を理解することで、観光が将来進むべき方向性について理解することが目標である。併せて、アメリカの観光事情についても、歴史的・文化的背景を概観し、その理解を深めていく。	○	○				◎				10
	観光まちづくり	2	選択	内容は大きく内容は大きく1）まちづくりに関する基礎知識、2）観光まちづくり戦略の策定、3）事例研究に分かれる。この内1）と2）は受講生のこれまでの理解を確認するための講義、3）は受講生によるグループ作業が中心となる。観光まちづくりの事例研究では、グループ毎に具体的な地域を選定し、その地域の現状を分析し、望ましい将来像を創って、それを実現するための観光まちづくり戦略の成功点と失敗要因を分析する作業を行う。	○	○				◎				11
	地域観光	2	選択	本講義では、テーマごとに地域と観光のつながりを深めるとともに、日本と世界の話題の「地域」に焦点を当て、地域の特性と最新の観光事情を理解することが目標である。観光は、地域と深く密接に結びついている。いうまでもなく、観光地は、その地域に行かなければその特徴を味わえないゆえに、地域は貴重な観光資源となる。一方、地域にとっても、製造業や金融業が停滞している現状では、観光が地域振興の起爆剤としての期待を担われている。講義では、テーマごとに地域と観光のつながりを深めるとともに、現在進行している地域の様々な問題についても理解を深めていく。	○	○				◎				8

	観光地経営	2	選択	本講義では、観光地経営の概念や観光地の経営戦略とその現状に対する理解を深めていくことが目標である。主に、観光地経営の事例分析等を通じて、地域の問題解決へ向けた提案能力を身につけることを目指す。具体的には、日本の国や地方の行政システムや基本計画、国や地方行政における観光行政、地方財政の現状や観光による経済波及効果など、地域経営の視点を学修する。また、観光地域づくり法人（DMO）などの事例分析等を通じて、地域に人を誘引させるための観光プロモーションや観光促進の方法についての理解を深めていく。	○	○				◎				11
	開発経済学	2	選択	本講義は、主に発展途上国における経済の現状や今後の開発のあり方について理解を深めることが目標である。高度経済成長を果たした日本や東アジア諸国の開発理論をモデルとし、発展途上国の経済開発やそれに起因する貧困問題、環境問題などについて学修する。また、独立行政法人国際協力機構（JICA）や日本の政府開発援助（ODA）の活動について概観し、開発途上国への国際協力についての理解や、経済学の幅広い知識についての理解も深めていく。	○	○				◎				1
専 門 科 目 群 II	観光メディア制作基礎A	2	選択	本講義では、国際社会で活躍できる能力を磨くべく、観光メディアの観点から地域社会の情報を発信するための基礎スキルを身につけることが目標である。具体的には、観光メディアの制作に必要なAdobe IllustratorやPhotoshopなどのアプリを用いて、情報の編集や画像の利用における基礎的なスキルを修得し、観光地における地域社会を実践的かつ理論的な側面から観光地の人々や潜在的な観光客と情報を共有することをテーマとしたフリーペーパーの制作を実践する。					○	○	◎	○		9
	観光メディア制作基礎B	2	選択	本講義は、観光の現場で必要とされる基本的な動画編集やweb制作、web管理などの技術を身につけることが目標である。現在では、デザイナーでなくとも、自社のオウンドメディア（Owned Media：自社で保有するメディア）を制作・管理しなくてはならない状況が生まれており、地域社会においても多様なメディアを活用できる技術を修得した人材が求められている。講義では、Adobe Premiere Proを利用して動画編集を行うとともに、Adobe Dreamweaverなどを用いてweb siteの制作技術とweb siteの管理技術を身につける。					○	○	◎	○		9
	観光プロジェクトA	2	選択	本講義は、履修生が主体的に参加するプロジェクト型授業である。具体的な講義内容は様々であるが、地域社会や企業が有する様々な課題を発見し、その解決に至るプロセスを通して、プロジェクト遂行の手法を修得することが目標である。講義は演習形式であり、プロジェクトを実践する過程で、企画力・遂行能力・マネジメント力・合意形成力などを高め、目的達成の方法を身につける。そして、体験を通じた学びから自己肯定感や達成感を獲得することを目指していく。						◎	○	○	○	11
	観光プロジェクトB	2	選択	本講義は、履修生が主体的に参加するプロジェクト型授業である。具体的な講義内容は様々であるが、地域社会や企業が有する様々な課題を発見し、その解決に至るプロセスを通して、プロジェクト遂行の手法を修得することが目標である。講義は演習形式であり、プロジェクトを実践する過程で、企画力・遂行能力・マネジメント力・合意形成力などを高め、目的達成の方法を身につける。そして、体験を通じた学びから自己肯定感や達成感を獲得することを目指していく。						◎	○	○	○	11
	観光メディア制作応用A	2	選択	本講義は、観光メディア制作基礎Aの応用編として、新しい観光の価値を自ら作り出すスキルの修得が目標である。具体的には、Paper media（ポスター、チラシ、リーフレット、企業広報誌など）制作する。とくに、観光まちづくりに寄与するための地域の情報や、観光ビジネスに寄与できる新しいビジネスを主眼とした情報を掲載したフリーペーパーを制作する。さらに、当該講義で制作した制作物の展示ないし即売会を実践する。地域の中で行うにあたっての会場借用や会場設営などにも取り組み、自分たちの中で工夫して実施できるようにマネジメントの方法や、目標達成に向けたチームワーク力、リーダーシップ力を身につける。					○	○	◎	○		9
	観光メディア制作応用B	2	選択	本講義は、観光メディア制作基礎Bの応用編として、既に身につけている高度な動画編集技術とweb siteの制作技術、web siteの管理技術を通して、観光地をセルフブランディングする技術を身につけることが目標である。そのため、Adobe Premiere Proを利用し、その動画を活用したVlog（Video Blog）制作、Vlogを掲載するための基本的なweb siteのデザイン制作及びweb siteの管理方法などを実践するとともに、地域ブランディングの手法についての理解を深めていくとともに、マネジメントの方法や目標達成に向けたチームワーク力、リーダーシップ力なども身につける。					○	○	◎	○		9
	観光ゼミナールA	1	選択	観光ゼミナール（ゼミ）は、学部の学びのコンセプトである「観光ビジネス」「観光まちづくり」「観光メディア」そして「国際観光」のテーマで開講される。学生は自らの希望する研究テーマのゼミを選択することができる（ただし人数制限があるため、必ずしも希望する担当教員の観光ゼミナールに所属することはできない）。ゼミでは各テーマに合わせて、学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「観光ゼミナールA」では、担当教員とともに研究の方向性やプロジェクトの取り組みを検討し、ゼミでの研究活動を進めていく。また、併せて卒業論文を執筆するかを担当教員とともに検討する。					○	○	◎	○		
	観光ゼミナールB	1	選択	観光ゼミナール（ゼミ）では、各ゼミのテーマに合わせて学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「観光ゼミナールB」は、「観光ゼミナールA」で履修選択したゼミを継続して履修する。原則として異なるゼミへの変更は認めていない。「観光ゼミナールB」では、「観光ゼミナールA」で検討した研究の方向性やプロジェクトに取り組み、ゼミでの研究活動を進めていく。また、併せて卒業論文を執筆するかを担当教員とともに検討する。					○	○	◎	○		
	観光ゼミナールC	1	選択	観光ゼミナール（ゼミ）では、各ゼミのテーマに合わせて学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「観光ゼミナールC」は、「観光ゼミナールA」あるいは「観光ゼミナールB」で履修選択したゼミを継続して履修する。原則として異なるゼミへの変更は認めていない。「観光ゼミナールC」では、担当教員とともに研究やプロジェクトに取り組みと同時に、卒業研究や卒業制作について検討し、ゼミでの研究活動を進めていく。卒業論文を執筆する学生は「卒業論文」を履修する。					○	○	◎	○		
	観光ゼミナールD	1	必修	観光ゼミナール（ゼミ）では、各ゼミのテーマに合わせて学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「観光ゼミナールD」は、「観光ゼミナールA」あるいは「観光ゼミナールB」あるいは「観光ゼミナールC」で履修選択したゼミを継続して履修する。原則として異なるゼミへの変更は認めていない。「観光ゼミナールD」は必修科目であるので、必ず履修しなくてはならない。「観光ゼミナールD」では、これまでのゼミ研究活動の成果として、卒業研究あるいは卒業制作を課題として執筆・制作し、提出する。なお、卒業論文を執筆する学生は、卒業研究・卒業制作を提出する必要はない。					○	○	◎	○		

	卒業論文	4	選択	<p>観光ゼミナール（ゼミ）では、各ゼミのテーマに合わせて学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「卒業論文」は、ゼミでの研究活動の成果として執筆する。そのため、4年に進級した際に履修可能となる「観光ゼミナールC」、「観光ゼミナールD（Dは必修）」を履修することが望ましい。卒業論文を執筆するには、ゼミ担当教員の指導のもとに研究内容を検討し、「卒業論文規定」に基づいて執筆・提出します。そのため、「観光ゼミナールA」から継続的にゼミを履修することで研究活動を深めていくことが脳となる。卒業論文に関する諸規定は別途「卒業論文規定」に示している。</p>				○	○	◎	○	
--	------	---	----	--	--	--	--	---	---	---	---	--

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナリシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」